令和６年度　日野市立東光寺小学校経営重点計画　　自己評価シート　　令和7年3月公表

★学校教育目標　　○明るい子ども　　○考える子ども　◎強い子ども

★目指す学校像（ビジョン）

【目指す児童・生徒像】　○自然を大切にし、優しい心で接する子供　○自ら考え、判断して、よりよく学び、行動する子供　○健康・安全に心掛け、前向きな気持ちで生活する子供

【目指す学校像】　○安心・安全な学校　○子供が嬉々として登校し、自分の成長を実感する学校

【目指す教師像】　「共に　あたたかく　きびしく」　○教職員同士、地域・保護者と共に　○報告・連絡・相談を迅速・密に　○服務事故ゼロ

★重点計画の概要

学校の教育目標、目指す学校像達成のため、第4次日野市学校教育基本構想「すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力」の育成を学校経営の理念の中核とし、その中で、本校は児童が安全に、安心して生活する中で、児童一人一人が自尊感情や事故有用感を高めるため「児童の安全・安心プロジェクト」を行う。具体的には
①「特別の教科道徳」を校内研究として取り組み、児童の自尊感情や自己有用感を高める。特別活動を教育課程の中心に置き、特別活動と特別の教科道徳との往還を研究の中心とする。
②生活指導については、「東光寺スタンダード」を浸透・徹底させ、規範意識の育成、基本的な生活習慣・授業規律を確立する。保護者会や学校便りを通して、保護者・地域にも発信する。
③コミュニティ・スクールとして、地域との双方向のつながりを強め、地域に根ざした学校を目指す。地域の特色を生かした活動の充実と、地域のために貢献・活動をする児童を育成する。
地域・保護者ボランティアを授業や教育活動全般へ積極的に要請する。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	【安心できる学校】 ①教育活動の基盤は「安心・安全」であることを常に念頭に置き、安全で安心できる学校体制をつくる。 ②生活指導の充実を基盤として豊かな人間関係を醸成し、自他を大切にする心、正義感や自尊感情・自己有用感、社会貢献意識など人権意識や豊かな人間性、社会性を育てる。	校内支援体制及び相談体制を充実し、児童全員が安心して過ごすことができるよう、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、即時対応に努める。	年３回の「ふれあい月間」等を利用し、全校で定期的ないじめの調査を実施すると共に、児童の自発的・自主的な活動を実施する。 〈主な取組〉 ・スクールカウンセラーによる５年生への全員面接 ・年３回の「いじめアンケート」の実施と聞き取り調査の徹底 ・朝会等でのいじめ防止に関する講話	4	④ 年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が１００％ 3 年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が９０％以上 2 年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が８０％以上 1 年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が８０％未満	3	4 児童アンケートで、「学校で安全・安心に過ごせる」と答えた児童が９０％以上 ③ 児童アンケートで、「学校で安全・安心に過ごせる」と答えた児童が８０％以上 2 児童アンケートで、「学校で安全・安心に過ごせる」と答えた児童が７０％以上 1 児童アンケートで、「学校で安全・安心に過ごせる」と答えた児童が７０％未満	・児童に真剣に向き合う教員が多く、子供たちが安心して学校生活を送れている。今後もいじめへの素早い対応を期待したい。 ・登校しても教室に入れない児童に時間を掛けて寄り添う様子を目にしている。 ・児童アンケートに際し、伝えたい内容を言語化することが苦手な児童への対応はどのようにしているか。 ・いじめに関しては、何がいじめになるか、いじめを受けた時の苦しさなど、実例を取り上げる。 ・高学年は一人1台端末を使っての相談も検討してほしい。 ・目安箱の設置は一つの手段だと考える。 ・一人一鉢栽培では教員の連携不足の場面が何度かあり、改善が必要と感じた。（４年コスモス）	・いじめ対策に関しては教員が高い意識で取り組んでいる。今後も組織的にいじめ未然防止・早期発見・早期対応に取り組む体制を維持し、児童が安全に過ごせる環境づくりに力を尽くす。 ・児童の意見を見逃さずに拾い上げるようにするために取組を工夫していく。同時に教員同士の連携強化を図る。 ・安全・安心に不安を抱えている児童がいるので、教員一人一人が児童と会話する機会を増やし、児童の不安や困っている事柄に速やかに対応できるようにする。 ・不登校対応の体制を整える。学校内での居場所づくりを中心として、どの子も安心して学校で生活できるための体制を強化する。
		学校生活全体を通して、基本的な生活習慣や学校のきまりについて、全教職員が、いつでも、どこでも一貫性のある指導を行う。	「東光寺スタンダード」の基本的な考え方や実践方法を共通理解し、浸透・徹底を図る。また、保護者会や学校公開等の機会を通じて、東光寺スタンダードの実践を保護者や地域の皆様に向け発信し、地域全体で子供たちのよりよい生活習慣づくりに取り組む。 〈主な取組〉 ・時間の厳守　・廊下の歩行 ・来校者や友達への挨拶の励行 ・脱いだ靴の整理整頓、ゴミ拾い等の奨励 ・授業を中心に互いに敬称を付けて名前を呼び合う習慣 ・丁寧な言葉遣い ・他者を尊重した関わりの充実 ・計画・代表委員会が中心となった「学校をよりよくするための児童発の取組」の実践 等	4	④ 東光寺スタンダード実施の自己評価で３以上達成したと答えた教員が８０％以上 3 東光寺スタンダード実施の自己評価で３以上達成したと答えた教員が７０％以上 2 東光寺スタンダード実施の自己評価で３以上達成したと答えた教員が６０％以上 1 東光寺スタンダード実施の自己評価で３以上達成したと答えた教員が60％未満	3	4 児童アンケートで「学校で自分が大切にされている」と答えた児童が８０％以上 ③ 児童アンケートで「学校で自分が大切にされている」と答えた児童が７０％以上 2 児童アンケートで「学校で自分が大切にされている」と答えた児童が６０％以上 1 児童アンケートで「学校で自分が大切にされている」と答えた児童が６０％未満	・毎月の生活指導目標には『東光寺スタンダード』の取組が具体的に挙げられている。 ・家庭や地域の意識が非常に大切だ。家庭・地域が変わり、学校が変わる。学校が変わり地域が変わるという循環ができればよい。 ・特に挨拶ができない児童がまだ多い。 ・「学校で自分が大切にされている」は教員との関係による。一日の中でどの程度声を掛けられているかを振り返ってほしい。 ・子供たちの元気な挨拶が児童・保護者の回答どちらも昨年より減なのが残念だ。「東光寺スタンダードの実行」の昨年比9.2%減は大きい。保護者アンケートの回収率15%減も気になる。 ・『東光寺スタンダード』の意味が児童に浸透しているかは確認が必要である。	・東光寺スタンダードは、全教員が内容を理解し、生活指導の基盤と位置付けて指導を行っている。児童への徹底も図っているが、義務的になってしまうことがあるので、児童が主体的に東光寺スタンダードの厳守に取り組めるよう、指導方法や内容を工夫していく。 ・生活指導を徹底している成果として、校内での問題行動や言葉遣いの乱れ、暴力行為はほとんど起きていないが、「自分が大切にされている」と実感できていない児童がいる。教員が児童に積極的に関わるとともに、原因の究明のためにも児童の話をよく聞くようにする。 ・児童が行っている学校の安心・安全を守るための活動を価値付け、児童自身が自分たちの努力により安心・安全な学校に成長していると実感できるようにする。
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	【子供たちがつくる学校】 児童が互いに認め合う中で、「自分は大切な存在である」「自分が役に立っている」「自分の居場所がある」ことを実感し、自己有用感を高め、健全な自尊感情を育む。	学級経営充実のため、年間を通して特別活動の充実を図る。子供たちには実践を通した成就感を積み重ねることで自己有用感をもたせ、自信をつけさせる。また、今年度は、研究の中心を特別の教科道徳の授業研究推進、日常の道徳教育の充実に置き、日常の道徳教育充実に取り組む。	学級会の進め方について、児童も教員も共に学ぶ。クラブ活動・児童会活動の進め方についても学級会での話合いを生かし、児童の手によって計画などを決められるようにする。また、児童主体の取組を充実させる。 〈主な取組〉 ・教師用指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」、副教材「楽しい学校生活」の活用 ・委員会・クラブ活動の様子をオンラインを活用して全校に紹介 ・児童が主体となった学校をよくするための取組	3	4 特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が９０％以上 ③ 特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が８０％以上 2 特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が７０％以上 1 特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が７０％未満	3	4 児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が８０％以上 ③ 児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が７０％以上 2 児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が６０％以上 1 児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が６０％未満	・よい学級にするための取組は高く評価できるが、教室内で落ち着きのない児童も目立つので、積極的な声掛け指導を行っていただきたい。 ・委員会やクラブ活動などの取組を評価する方法を充実させてほしい。 ・児童が主体となって学校をよくする取組を実践した後に、振り返る時間を取っているか。行動について児童がどう解釈したかが大事だと思う。 ・自己有用感は児童アンケート1.5ポイント増。心豊かな子供を育てるための日々の取り組みの成果だと思う。 ・「菊の世話」は全学年対象となっていない。アンケート内容を菊ではなく「鉢」とすることで、数値は変わると思う。	・本校で特別活動を研究していた時期から３年が経過し、特別活動に関する取組の継承が課題になっている。校内研修等を機会に共通理解を図るようにする。 ・東光寺スタンダードの厳守を基盤として、児童が安心して自分の考えを発信し、児童同士で意見を交流する中で話合いの室を高め、より全員の納得に近い結論が出せるようにしていく。 ・児童自身が学級会を通じて得た力を実感できるよう、教員が常に価値付けを行うようにする。 ・委員会やクラブ活動の際に、児童が主体的に取り組めた実感をもてるよう声掛けするとともに、児童が自身を振り返る中で自身の成長に気付けるようにする。
			特別の教科　道徳の研究３年次として、特別の教科道徳の授業研究推進、日常の道徳教育の充実に取り組む。 〈主な取組〉 ・児童が学び合い、認め合う雰囲気を基盤とした特別の教科道徳の研究 ・低・中・高学年３つの分科会で、それぞれの発達段階や特性に応じた研究の推進 ・学級担任・専科教員・つぐみ学級・ステップ教室の教員全員が３つの分科会に所属して行う研修の充実。 ・代表委員会が考えたスローガン「思いやりの心をもって助け合える東光寺小学校」を基に、東光寺小学校をよりよい学校にしようとする決意をもたせる。 ・児童の変容を評価する取組の充実。	4	④ 研究主題に基づく特別の教科道徳・道徳教育の取組を行った教員が９０％以上 3 研究主題に基づく特別の教科道徳・道徳教育の取組を行った教員が８０％以上 2 研究主題に基づく特別の教科道徳・道徳教育の取組を行った教員が７０％以上 1 研究主題に基づく特別の教科道徳・道徳教育の取組を行った教員が70％未満	3	4 児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が８０％以上 ③ 児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が７０％以上 2 児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が６０％以上 1 児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が６０％未満	・児童自身の考えで決めた言葉には力と重みがある。今後も委員会中心に取り組めるよう願っている。地域として協力させていただけるとありがたい。 ・多様な学習への対応が求められているが、児童の実態を踏まえて慎重に実施してほしい。 ・子供たちに正面から向き合い、良いことと悪いことの区別を明確に示すことが大切。良いことをしたときは思い切り褒めるとともに、一人一人が学校にとってとても大切な存在という意識を植え付けたい。 ・自分が役に立っていると感じていない児童の本音をぜひ聞き取り、児童が「役に立っている」と感じられるよう次へのステップを示してほしい。	・校内研究で行っていることもあり、道徳教育・道徳授業に関しては、全教員が意欲的に取り組むことができた。 ・児童自身が「決める事の大切さ」「自分の言葉の強さ・重み」を実感できるよう、委員会活動やクラブ活動、学級での当番活動、係活動を大切にしていく。 ・「学校のために自分が役に立っている」と実感している児童の割合に関しては、まだ改善の余地がある。本校児童は日々の生活の中で素晴らしい行動が多く見られるので、教職員が児童の言動を丁寧に見取り、素晴らし言動を見逃さずに褒めることで、児童自身が自分の行動の素晴らしさを実感できるようにする。
社会と未来に開き、みんなでつくる	【地域共創】コミュニティ・スクールとして地域と学校との双方向の教育活動を展開し、地域に根ざした学校を目指す。	教育活動全体を通じて家庭や地域との連携を図りながら、地域の自然の素晴らしさや生物を育てる喜びを通し、”いのち”の尊さを実感させる。	“いのち”を実感できる体験的な活動や生きる喜びや楽しさを実感できる学習や活動を行う。 〈中心的な活動〉 ・全校「一人一鉢」栽培（高学年は菊、４年生はパンジー、３年生はコスモス、２年はミニトマト、１年はあさがお） ・農業活動の体験を通じた「食」への感謝と正しい知識の理解 ・“いのち”をテーマとした道徳授業地区公開講座や学校公開での授業公開 ・保護者・地域の方々と共に避難所開設訓練の実施	4	④ “いのち”の取組を学期に１回以上行った教員が９０％以上 3 “いのち”の取組を学期に１回以上行った教員が８０％以上 2 “いのち”の取組を学期に１回以上行った教員が７０％以上 1 “いのち”の取組を学期に１回以上行った教員が７０％未満	3	4 自らすすんで植物栽培や農作物の世話、地域の自然を生かした遊びに関わった児童が９０％以上 ③ 自らすすんで植物栽培や農作物の世話、地域の自然を生かした遊びに関わった児童が８０％以上 2 自らすすんで植物栽培や農作物の世話、地域の自然を生かした遊びに関わった児童が７０％以上 1 自らすすんで植物栽培や農作物の世話、地域の自然を生かした遊びに関わった児童が７０％未満	・鉢を昇降口に置くことで児童の注目が集まり、声掛けし合う姿が各学年で見られた。真夏の時期を避けた教材を選んだことで最後まで体験できている。一方でいやいや関わっているように感じられた児童がいた。 ・植物栽培で「花を３輪咲かせる」「トマトを５個実らせる」など、始めに具体的な目標を設定していないと“いのち”にしっかり向き合えず、取組が漠然とするので、目標を文字化させたい。 ・食べることは生きること。最近の異常気象で今まで通りに作物ができなくなっていることを学習し、食べられることに感謝できる児童を育ててほしい。 ・“いのち”に植物だけでなく、動物、鳥、魚、昆虫なども入るとよい。触れ合いや観察があることで児童により理解してもらえるのではないか。	・今年度は、昨年度よりも教員が意欲的に地域の皆様と連携し、一緒に栽培活動や稲作等農業体験の活動を実施していこうという姿勢が見られた。 ・一人一鉢の取組で、菊以外も昇降口前に並べて飾ったことにより、児童の意欲が上がり、結果として植物を大切にしようとする意識が高まった。今後も継続していきたい。 ・児童も、水やり等の日々の活動や、農業体験での草取り等の活動で、これまでより積極的に作業に取り組んでいた。活動の中でより多くの時間”いのち”の素晴らしさを実感できるよう、意図的に声掛けしていくようにする。 ・地域講師を招いた学習を行った際、振り返りを大切にしたり、学習した内容を生かした活動を行うことで、児童の主体性を高める。
		経験させてもらう学習から、地域に貢献できる活動へと高めていく。開校して現在までお世話になった保護者・地域の方々に感謝と尊敬の念をもたせる。	地域の協力により、農業体験をはじめとして地域との協働的な学習活動を展開できている。今後は、地域の方々への感謝を具現化できるよう、児童自身が地域の活動に参加し、主体者として地域の活動に関わる経験を積ませていく。 〈主な取組〉 ・地域と積極的に関わり、子供たちが主体となって考え、発信する活動、地域と共に行う活動、地域に貢献する活動など、双方向の活動を行っていく。	4	④ 児童が主体的に地域と関わる学習活動を行った教員が９０％以上 3 児童が主体的に地域と関わる学習活動を行った教員が８０％以上 2 児童が主体的に地域と関わる学習活動を行った教員が７０％以上 1 児童が主体的に地域と関わる学習活動を行った教員が７０％未満	3	4 児童アンケートで、「地域の方への感謝を行動に移せた」と答えた児童が８０％以上 ③ 児童アンケートで、「地域の方への感謝を行動に移せた」と答えた児童が７０％以上 2 児童アンケートで、「地域の方への感謝を行動に移せた」と答えた児童が６０％以上 1 児童アンケートで、「地域の方への感謝を行動に移せた」と答えた児童が６０％未満	・米作り、菊に関しては担当の教員が主体的に進め、地域も教員の過度な負担とならないよう、双方協力できたと思う。 ・地域との連携はよくできていると感じる。 ・素晴らしい環境に囲まれている学校なので今後も多くの校外学習を行い、地域の人との交流も増やしていただきたい。そのための協力は惜しまない。 ・大人が子供の姿を見ての気付きや学びが少なからずあると思う。よろしくお願いしたい。 ・地域で生活する者として協力は惜しまない、子供たちにはいろいろな経験をしてほしい。 ・めりはりが分かってないだけと理解する。行動の意味、意義をぜひ教え続けてほしい。	・５年生の収穫祭や、３年生のありがとうの会など、児童が主体的に地域の方々にお礼の気持ちを表現しようとする機会を設けた。地域の皆様からも喜びの声を聞くことができた。 ・児童が地域の方々にお礼を伝える際、「感謝を伝えよう」という目的をもって学習のまとめを行い、催しに向けて準備し、当日も一生懸命頑張る姿が見られた。今後も東光寺小野文化として継続していきたい。 ・２年生の町探検や３年生の地域調べ、４年生の用水調べ等、地域を題材とした学習も充実していた。 ・より日常的な学習活動の中に、地域と関わった取組や、地域の皆様と協働した活動を行っていけるよう、総合的な学習の時間の取組を充実させていく。

※評価指標・評価基準は、２の段階を現状としています。